

2018年7月豪雨 広島県での洪水・氾濫の特徴



広島県河川調査G

広島大学大学院 工学研究科 河原能久・内田龍彦・北真人, 国際協力研究科 李漢洙
 広島工業大学環境学部 田中健路, 呉工業高等専門学校 環境都市工学科 黒川岳司

1. 広島県の河川災害の概況

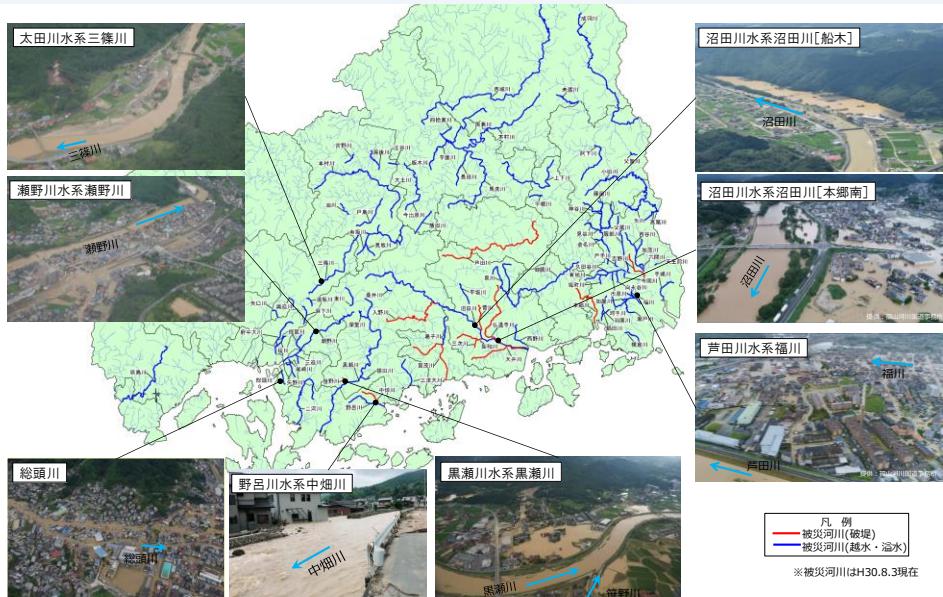


図1 2018年7月豪雨によって被災した広島県の河川¹⁾
 県管理の499河川のうち、破堤が12河川、越水・溢水が82河川に及んだ。

2. 被災の原因と状況



資料：広島県、平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂対策のあり方検討会 河川・ダム部会（第一回ワーキング資料）、破堤点（菅川右岸追加）、平成30年8月17日現在暫定結果

図2 河川越水・溢水氾濫と支川破堤による広域氾濫被害（沼田川下流域）



図3 菅川周辺のハザードマップと左岸の破堤による浸水被害の様子



図4 越流による堤防侵食と氾濫被害（沼田川船木大橋周辺）



図5 土石流による支川の閉塞に伴う氾濫被害（瀬野駅周辺）



図6 河岸侵食による道路崩落、陥没被害（瀬野川と国道2号線）



図7 道路橋、鉄道橋の落橋（三篠川）

3. まとめ

- 本川の侵食を伴う広範囲の越水・溢水に加え、支川が破堤することにより、浸水被害が拡大した。本川と反対側の支川からの氾濫により、ハザードマップに示されていない一部の地区も氾濫した。
- 土石流、河岸侵食により供給された土砂が小河川や支川に堆積し、氾濫域に浸水、土砂堆積被害をもたらした。
- 河道湾曲部、橋脚や堰・床止め下流等、多くの箇所で大規模な河岸崩落、侵食が生じ、河川沿いの幹線道路が寸断された。さらに、本出水により、多くの河川の道路橋、鉄道橋が落橋し、斜面崩落・土石流等による被害と併せて、時空間的に相乗的に被害が拡大した。

参考文献

- 1) 広島県「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」資料
- 2) 三原市総合防災ハザードマップ(平成22年3月発行), <http://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/19/sougouhazad.html>